

キタのまちのニュースレター



鳥取砂丘のできた



キタ歩き日本旅



鳥取県
の巻

全国約半数の道府県事務所が北区「大阪駅前ビル」に！旅の玄関口みたい！！それが「キタ歩き日本旅」です。

大阪・関西万博への誘い。鳥取へ



そこで「キタ歩き日本旅」の県事務所への旅は今回、大阪駅前第3ビルに鳥取県関西本部を訪ね、その企画の中身について取材した。
(写真提供：鳥取県関西本部)

開催中の(10月13日まで)大阪・関西万博に「関西パビリオン」がある。「いのち輝く関西悠久の歴史と現在」をテーマに、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、徳島、福井、三重の9府県が出展参加し、各県の個性の極みが展示されているようだ。

鳥取無限砂丘

なんとなくロマンをかき立てるこのネーミングについては、北区民センターのお隣さん「カンテレのニュース」などを通知っていた。さらに、現地の鳥取砂丘から約7トンの砂丘の砂が運び込まれ、来場者が専用の「虫眼鏡型デバイス」をかざし観光・グルメ・工芸など、鳥取県の魅力アイテムを「発見していく」とのことだ。一体どんな試みが秘められているのか？

それは万博会場に行ってみてのお楽しみだが、「鳥取・無限・砂丘」という言葉の連なりには、やはりロマンが秘められているような気がしてならない。秘められているそのロマンの実像は「リアルな鳥取にある」のではないかな。そんな仮説をもとに取材をはじめた。

《3ページに続く》

大淀&北区民センター便り

韓国語に触れてみる！
するともっと楽しくなる!!

K-POPや韓流ドラマを楽しむことが、ひと昔前の「とんがった趣味」でなく、日常のすぐそばにある「楽しみのアイテム」として受け入れるようになり、韓国旅行や大阪・鶴橋のコリアタウンへの気軽な「日帰り旅」も大人気です。そんな日々日常に接するたび、私たちの会館（北区民センターや大淀コミュニティセンター）で、「気軽に楽しめる韓国語教室を」との思いが募りました。「大好きなコト」へのお手伝いがしたかったのです。

「大好きなコト」に対しては、「もう少しだけうまくなりたい」と思う気持ちと、逆に、私だけの時間は「誰にも邪魔されたくない」との考えが錯綜しがちで、二律背反の不思議な関係に陥りがちです。では K-POPや韓流ドラマを楽しむ際の「もう少しうまくなりたい」とは、一体どんなことをいうのでしょうか？いろいろな考え方があるのですが、私はこう考えていました。……ちょっとした韓国語、何気ない韓国文化に触れると「楽しみが冴え、自分時間の深みが増し、人生のゆとりも増す」のではないかと。

そんな時、思いがけない出会いがありました。なんと、「気軽に楽しめる韓国語教室があったらなあ〜」との思いにピッタリの方に出会えたのです。

出会いとは、時それぞれの背景的な環境や、ジャスト・イン・タイムの偶然により、その後の「お付き合い」に発展するかどうか決まるといっても過言ではありませんが、まさに願ってもない出会いでした。その方の名は南延秀（ナム・ジョンズ）さん。すでに、京都や奈良で韓国語・市民教室のご経験があり、今度は「ぜひ大阪で、韓国語教室を」との願いを持たれている方でした。

「ナム先生の韓国語教室」その詳細は、このニュースレターの最後「編集後記」に記しています。さあ！一緒にいかがですか！！



文化に気軽に触れる工夫！ 写真はその一端「舞う・ナム先生」
但し、先生に触れてはいけません！？

見慣れた風景「まち歩き」

水墨画で世界を描く？

インバウンド観光の高まりは日々日常の風景になり、「えっ？」とってしまうような場所にも観光客の姿が普通になりました。そんな中、本紙4ページ「浪花百景歳時記」の「道行ナビゲーター」橋爪節也先生の元職場・大阪大学総合学術博物館で《大阪大学総合学術博物館 特別展 松本奉山—水墨画で世界を描く—》が4月26日から開催されます。氏は現役バリバリの日本美術史家で館長をされていた方です。

この《松本奉山展》を検索しURLを拝見してみると、日本美術の奥行や幅広感がすぐ目の前に迫ってくるような感覚になります。……奉山は「水墨画で自分の描きたいものが描けるのか」という葛藤を抱えていましたが、昭和38年（1963）の初渡米をきっかけに新たな画境を切り開き、前例のない水墨画を作り上げました。……（原文まま・抜粋）

今号の「浪花百景歳時記」執筆は「編集室」となっているのが残念ですが、この美術展は、これまでそのほとんどを執筆してくださっている同・博物館研究支援推進員の波瀬山祥子さんの担当とお聞きしました。

「こんなところ・あんなところ」にまで入り込んでくるニッポン観光への人気には、意外に思うことが多々ありましたが、この《松本奉山展》のガイダンスを見て、なぜか納得してしまいました。会場など、詳しくは同『松本奉山展』URLでご確認ください（入場無料）。

ちなみに、毎年11月初旬開催の北区民センター「浪花百景タペストリー展」は大阪大学総合学術博物館の先生方のプロデュースを仰いでおり、先生方のワークショップもごぞいます。お楽しみに!!





《1ページから続く》

大山ロマンのひとつ：大山まきばみるくの里

鳥取砂丘の成り立ち

かくも雄大な鳥取砂丘の成り立ちは、鳥取県の広報URL【イラスト「鳥取砂丘のできたかた」】で確認できる。この図は日本海から中国山地を眺望し解説がなされている。いつも見ている「南から」ではなく「北から」の眺めだ。その視点が新鮮で、とても分かりやすく超おススメだ。

それによると、このそもそもの砂は、①中国山地の岩石（花崗岩・安山岩・玄武岩など）が風化作用を受け、もろくなって砂となり、②砂は雨に流されて千代川によって運ばれ、日本海へと流れ、③日本海の海底に堆積した砂は沿岸流と波の動きによって岸へ打ち上げられ、④打ち上げられた砂が強い北西の風によって内陸へと運ばれ、これらが長い年月繰り返されることで鳥取砂丘ができました。……とある。

万博会場に運び込まれた本物の鳥取砂丘の砂は、触るととてもサラサラで気持ちがいいらしい。さらに、この“無限砂丘”では、“魅力発見”の様々なアイテムと共に、プロジェクションマッピングなども駆使し、鳥取の風景や星空などが映し出されるとのことだ。

聞けば聞くほど、鳥取という場所の可能性を“無限砂丘”を通じ、表現しようとしているのではないかということに思いが至る。本物の“本物”が気になってくる。なぜなら、「リアル鳥取」に魅力がなければ、ロマンはすぐにしぼんでしまうからだ。

では、大阪・関西万博の「鳥取無限砂丘」に優る、リアル鳥取のロマンの実体は一体全体どんな所にあるのだろうか？

無限への旅・とっとり旅ロマン

北区の大阪駅前ビル群には日本全国47都道府県のほぼ半数にもなる道府県事務所（鳥取県では「関西本部」と呼称）が立地し、各県の事情により強弱はあるものの、観光・産業立地・物産・IターンやUターン移住などの促進（推進）などにあたっている。鳥取県関西本部では、そのいずれに対しても手厚くまんべんなくアプローチされているようだったが、ここでは、「鳥取無限砂丘」の“無限”に注目し、観光分野に焦点を絞ってお聞きした。

以下に、その取材から得た内容を「無限への旅・とっとり旅ロマン」というイメージに込め、旅のガイド風書き綴った。

（1）無限の“無限”

鳥取県は東西に長く、東から続く海岸美が途切れたかと思うと海の手前に鳥取砂丘が現れる。ところが砂丘と海は、どこでどうつながっているのか？……この風景に「無限」という表現を感じる。

砂丘から西に向う。北側（右手）はどこまでも続く日本海、南側（左手）はたおやかな緑が連なる中国山地。そこに国道9号とJR山陰本線が並走している。このルートをたどると、「自然環境と地域社会が一体」となったニッポンの無限のようなものを感じてしまうのはなぜだろう。

（2）海と山・砂の魅力と土のチカラ

少し西に進むと今度は一転、霊峰・大山が目に飛び込み、壮大なすそ野の風景が広がってくる。大山の標高は1,729メートル。この裾野は日本海に直接つながり、海と陸との境目が海岸線であることが実感できる。ここでも……どこまでが山でどこからが海か……これも無限だ！

その大山の裾野は高原地帯そのものだ。この「ぐるり一周」には、牧場やペンション群をはじめとした、地域生活者の多種多様な“リゾートの営み”が古くから点在する。流行に左右されない、ゆったり穏やかで持続可能な観光の姿が大山に宿っている。

大山の土は、鳥取砂丘の白っぽく美しい砂の色目とは異なり、黒色の力強さが特徴だ。それは、「くろぼく」と親しみを込めて語られる黒ボク土で、火山灰と腐植物質が混ざり合った「大山からの贈り物」。養分に富み、畑作に適していることから農作物のあじわいは格別で、それらを気軽に購入できる道の駅「大山恵みの里」も魅力だ。大山の美味しい水も超有名！

（3）とっとりのクリエイティブ

さらに足を延ばす。商都・米子市から北に向かうと弓ヶ浜。その名も美保湾という風光明媚な海と海岸線が続く。魚が旨い境港はもうすぐそこだが、忘れてならないことがある。そこは、大阪市生まれで境港育ちの漫画家・水木しげるさんの故郷、ゲゲゲの鬼太郎と出会えることだ。

地域一体のこの取り組みは1993年に誕生した「水木しげるロード」で有名。境港駅から水木しげる記念館まで約800m続く妖怪の道には、いまや200体にも迫る妖怪ブロンズ像が旅人を出迎えてくれる。

そうだ！鳥取県の中ほど北栄町は、名探偵コナンを生んだ漫画家・青山剛昌さんの出身地だった。鳥取の無限とは、このような大自然の無限に育った悠久の文化そのものなのかもしれない。



（4）無限への旅・とっとり旅ロマン

ふらっと訪ねることもたやすい大阪と鳥取は思いのほか近い。だから一度と言わず二度三度。1泊と言わず2泊、3泊の「たびたびの旅」にうってつけだ。紙幅の関係ですべてを紹介することはできなかったが、夏は意外や意外「避暑にも最高！」の目的地で、バラエティーに富んだ美術館や博物館めぐりも楽しい。

内緒だが……「道の駅めぐり」では、山海の品々が、ごく普通に美味しくリーズナブル。「あつというモノ」に出会える。実は「買い出しツアー」というのも隠れた人気で、無限への旅・とっとり旅ロマンのヒミツのおススメ……この収穫を逃す手はない。（このページは、鳥取県関西本部を取材させていた後、その内容を「キタのまちのニュースレター編集室」の文責で「旅仕立て」に編集したものです。）

鳥取県関西本部

〒530-0001 大阪市北区梅田 1丁目1-3 大阪駅前第3ビル 22階 ☎06-6341-3955
営業時間：8時30分～17時15分（土・日曜日、祝日、休日、12月29日～1月3日を除く）

浪花百景歳時記

キタのまちのニュースレター編集室

「大阪自慢の水辺」は、ここから

第九十四景 天満樋の口 芳雪画

今も昔も桜之宮は桜の名所。対岸の鳥居は桜宮神社でしようか、左の茶亭も「花の家」です。提灯にある片仮名の「ヨ」を四つ組んだ模様は、作者の南粹亭芳雪の「よし」を「ヨ」×四であらわしたものです。大川をはさんで桜花満開に心もウキウキ、華やかで画面も洒落てます。

道行ナビゲーター 大阪大学名誉教授 橋爪節也

この連載のナビゲーター・橋爪節也先生の編著、『原寸復刻「浪花百景」集成』（発行・創元社）によれば、天満樋の口は、「天保九年（一八三八）に幕府が北東側へと掘り進める工事を実施、現在の北区樋之口町に樋門を設け大川と通水した」と紹介されています。それまで堀留となっていた天満堀川を大川まで通し、前号で紹介した「さくらのみ宮景」とともに大川沿いに桜並木が整備され、対岸とあわせた桜の名所になった。……とも。天満堀川の「源流」は現在の北区菅原町に

たどることができですが、堂島川から水を導き、その先が行き止まりの堀川では汚濁が激しかったことが容易に想像できます。そのどんづきの先、大川（旧・淀川）へと堀を延ばしたことで、名実ともに堀川になり水質も改善されたのでしょう。

舟運を利用した堀川沿いの乾物問屋は日本有数の商いを誇り、大小の問屋さんの荷役の中心は（汚濁は激しいものの）水面穏やかな店奥の船着き場でしたから、大川と通水してしまおうと流量が激しくなり困ってしまったようなものですが……そこは淀川……高低差がなく流れが穏やかで「まるで水が激んでいるように見える」激川＝淀川の面目躍如、引き続き穏やかだったようです。

東京の文化人が淀川を指し、「水がよどんで汚いことを自慢し、それをそのまま淀川と命名する大阪人はよほど酔狂な人たちだ」と、ある月刊誌で揶揄していたことがありましたが、おあいにく様。この淀川の意は「水の流れが穏やかなることを表現しての」淀川です。論より証拠には、この付近は、水清く穏やかな流れを利用した「水売り」の水面だったし、銀橋のすぐ上流側では、秀吉がこの付近で茶会を催したことを記す石碑もあります。その名も「青湾」……なんと美しい名でしょう。

堂島川の岸辺が気持ちよく散歩できる空間に整備され、この天満堀川の源との出会いも日常になりました。堀川のルートは、ここから阪神高速下の道路になってしまいい名残は失せますが、天神橋筋商店街に「平成の夫婦橋」が平成十二年（二〇〇〇）に再現されています。この先が「天満樋の口」です。

いま現在、大阪市立の小学校でもっとも歴史ある小学校は明治六年（一八七三）創立の堀川小学校です。この「樋の口」の名残は脈々と堀川の地に刻まれています。



編集後記

ナム先生の韓国語教室の概要です。お気軽にご参加ください。5/5（月）からスタートです。

■毎週・月曜日10時～11時

■参加費5月・6月分合計4,800円（7月からは3ヵ月ごとの金額となります）委細詳細お問い合わせ下さい。

問い合わせ先：大淀コミュニティセンター〔担当・高田〕
電話：06-6372-0213（会場住所・メルアドは右欄参照）

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室

■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会

■発行 月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行

北区民センター 〒530-8401 大阪市北区扇町2-1-27
✉ kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp

大淀コミュニティセンター 〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2
✉ oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp